

日野市立教育センター所報

教育センターだより

第26号 平成24年3月9日発行



平成24年2月28日
教育センター 調査研究事業発表会

日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分

~午後5時15分



教育センターの今年度の成果に寄せて

日野市教育委員会委員長職務代理者

西 田 敦 子

日野市立教育センターは、教育課題や市民のニーズに応える教育・研究機関として、加島新所長の下、今年度も“教育のまち日野”を支える大きな3つの事業を進めました。

調査研究部で推進している教育は、いずれも新学習指導要領で重視されています。日野市では、調査研究の成果を順次施策化し、各学校の授業で活用しています。

ICT活用研究委員会では、ICT活用教育の新たなビジョンに基づき、市内小中学校で「一斉学習、個別学習、協働学習」を進め、「ICT活用実践事例集」の充実を図りました。また、拡大投影機能の導入等、ICT環境の充実に努めました。日野市独自の「ICTマーク」の取り組みは4年目を迎え、昨年を引き続き、セキュリティ部門で全校取得を達成しました。

理科教育推進研究委員会では、魅力ある理科授業に向けて理科支援センター機能を一層充実させました。企業や多摩動物公園と連携した研修会の実施、理科学習に役立つ情報や教材の提供、CST（コアサイエンスティチャーによる理科実技研修と学校支援、月1回のCST講座等、教員の指導法改善のためのシステムを定着させました。理科好きの子どもが育つことを願い、小・中学校のさらなる連携や日野の自然を生かした授業実践の開発などの構想も広がっています。

郷土教育推進研究委員会では、博物館・図書館と連携した授業実践を進め、「郷土日野指導事例 第7集」を作成しました。郷土意識を育む学習指導法の研究と電子データ化を含めた教材の整備・充実を進め、「ふるさと日野」に誇りと愛着をもつ子どもを育てています。

ひのっ子教育21開発委員会では、小学校外国語活動、中学校外国語について、小・中学校の教員が共同で、指導法、アクティビティ、教材・教具、評価等の研究に取り組み、2年間の集大成を実践事例集にまとめました。小・中学校の接続と連携を踏まえた外国語の実践授業研究として評価されています。新しく始まった小学校5・6年生の外国語活動にすぐに役立つ貴重な研究です。

教育資料・広報係では、教育センターのWEBサイトを充実させ、校内研究紀要の電子化、WEB発信を行うとともに、図書資料室の整備等、情報教育センター機能を充実させました。

研修部は、市内教職員約630人が集う全体研修会、各種研修会の補助をはじめ、若手教員1年次から4年次までの研修、継続した授業観察や授業力への指導助言などを行いました。学校は若返っています。新任の教員もたくさんいます。将来の日本の教育を担う若手教員支援体制として、研修部の役割はますます重要になっています。

相談部は、「教育相談室」、不登校の児童・生徒に学校生活への適応指導を行う「わかば教室」、不登校の児童・生徒への学習支援「eラーニング」、今年度新設された「登校支援コーディネータ」等により、相談活動と学習支援を充実させました。新たに教育相談研修を実施し、発達支援センター等との連携も行っています。不登校問題に取り組む「日野サンライズプロジェクト」には相談部が大きく関わり、登校支援体制と不登校児童・生徒の新たな居場所づくりを目指して2年目の研究を進めています。

このように、教育センターは日野市の教育の充実発展に大きな役割を果たしています。今後も学校の願いを事業に反映させながら、豊かな人材とネットワークを生かして事業を進めていただくことを期待いたします。

平成23年度 日野市立教育センター行事の報告

平成23年度 日野市立教育センター 調査研究事業発表会

日 時 平成24年2月20日 14:30～

会 場 教育センター講堂



昨年11月の中間発表会に続く最終の発表会でした。

加島俊雄所長の挨拶の後、ICT活用研究 理科教育推進研究 郷土教育推進研究の3つの調査研究の発表が行われました。各事業の詳しい活動内容は、本センター便りの3～5ページをご覧ください。本センター加島所長より以下の挨拶がありました。

- 1 本センターの事業は市内外より注目されている
- 2 ICT活用研究は今回が最後になるが、その機能はICT活用教育推進室において推進される
- 3 郷土教育、理科教育の推進事業は引き続き行われる

なお、本センターの事業をまとめた教育センター紀要は、5月にWebサイトで公表されます。

平成23年度 日野市立教育センター 第2回 運営審議会

日 時 平成24年2月28日 14:00～

会 場 教育センター 会議室



本センターには、その運営について必要な事項を審議するために運営審議会（学識経験者など8人で構成）が設けられています。この度、本年度第2回目の審議会が行われ、3部・8係の事業の評価と課題、展望について、審議がなされました。来年度は、本審議会の審議結果と教育委員会・市内各校等との調整を経て、新しくスタートすることになります。主な話題は次の通りです。

- | | | |
|-----------|---------------------------------|---------------------|
| 1 ICT活用推進 | ・協働学習とICT活用 | ・直接のコミュニケーションとICT活用 |
| 2 理科教育推進 | ・CSTの活用の効果と育成 | ・理科教育推進と地域など外部との連携 |
| 3 郷土教育推進 | ・大震災後のふるさと意識の高まりと新学習指導要領での位置づけ | |
| 4 研修部事業 | ・若手教員のコミュニケーション能力の育成 | |
| 5 一般教育相談 | ・電話相談と子どもこころの電話相談における学校生活に関する相談 | |
| 6 学校生活相談 | ・わかば教室生徒の進路状況 | ・いじめとひきこもり |

調査研究部

1 ICTを活用した実践的な研究（ICT活用研究委員会）

教育経営係

（1）入れ替えをした機器の活用研修会

平成23年12月20日、平山小学校に各学校においてICT活用の中核となっているメンバーが集まり、研修会が開催されました。今年、ICT機器の入れ替えでは、「みエルモもん、かけるもん」を小学校に導入いたしました。この機器の特徴的なところは、デジタルテレビ、実物投影機やパソコンの画像に書き込みを行なうためのツールで、電子ペンとA4サイズ相当の電子パッドで構成されています。ワイヤレス機能の搭載により、教室内を自由に移動しながら拡大提示画面への書き込みやパソコン操作を行なうことが可能です。研修では、講師が活用方法を説明し、グループ毎の教員がどんな教科で、どの分野で活用していけるか研究し、それぞれに発表していました。研修会のメンバーは研修成果を学校にもって帰り、他の教員に浸透させ、授業に活かしていくことになります。



（2）ICT審査マークについて

今年度の「ICT審査マーク」の取得の目標は、「授業部門」「校務部門」「セキュリティ部門」の3分野において市内小中学校が全て合格することにあります。「授業部門」では子ども達の学力アップに向けたICT機器の有効的活用、「校務部門」では児童の出席や配布資料の管理、通知票の作成、学校からの情報発信等の使用などに、「セキュリティ部門」ではセキュリティ管理とそれぞれについて審査します。

さて、ICT活用教育推進室では、最初に「セキュリティ部門」について審査を実施しました。その結果、小中学校の全ての学校が審査マークを取得することができました。今年、機器の入れ替えもあり技術的情報セキュリティ対策が変更されましたが、各校ごとに利活用のバランスを踏まえて、情報セキュリティ対策がしっかりと見直されていました。また、情報セキュリティについての事件・事故が発生しても、その内容をすぐ把握するとともに再発がないように継続的な対策もとられておりました。年度末には、他の2つの部門も審査が始まります。「ICTマーク」の3部門の全校取得を期待するものです。



（3）プレゼンテーション大会発表について

平成23年12月3日（土）に日野市民会館（煉瓦ホール）において小学校・中学校の児童・生徒によるプレゼンテーション大会が開催されました。今年で3回目を向かえるこの大会の目的は、子どもたちの発表力を高めることにあり、発表を聞いている人にわかりやすく、深く理解してもらうためにICT機器を使ってさまざまな努力や工夫がありました。子どもたちは、様々な分野について各学年の発達段階に合わせて堂々と発表していました。各学校の取り組み状況や特色が出ており、興味深く鑑賞することができました。保護者の参加も多く、発表に惜しめない拍手を送っていました。



2 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

楽しく学ぶ理科授業への支援

子どもたちが楽しく学ぶ、魅力ある理科授業を目指して科学技術振興機構（JST）が実施している、理科支援員等配置事業とコア・サイエンス・ティーチャー（CST）事業を紹介します。

（1）理科支援員等配置事業

17校中で16校から活用希望が出されました。本年度、初めて理科支援員の配置を希望した学校もあり、日野市の全小学校が支援員の配置を経験しました。理科支援員は、年間1学級当たり平均6時間から8.5時間配置されました。理科教育に経験豊かな先生が理科支援員として配置されている学校では、学年会に出席し、支援の方法や単元について打ち合わせをしました。



・教科書に載っている実験をする、
・原則として子ども2～3人の少人数グループで実験をする、
などを確認しました。予備実験や実験方法の指導、実験器具の準備などもしました。また、T₂として授業を支援し、必要に応じて担任に代わって授業を進めることもありました。

実験を少ない人数で行うことで、児童は前向きに実験に取り組むようになったとのこと。

（2）コア・サイエンス・ティーチャー（CST）事業

本事業は、「理科が好きで得意な小学校教員を、指導力と教材開発に優れたCSTに育成し、各地で実施する理科教育に関する研修の講師として活躍することで、小学校教員の理科指導における指導力の向上を図る」ことを目的に設置されました。

研修会の講師（教育センターだより25号で紹介）

巡回研修・・・CSTが学校に出向いての理科支援

授業に関する指導では、
・教科書に載っている実験の進め方
・教材の選び方
・事象との出会いの場の工夫や、問題を見いださせる指導法、などの質問が多く出されました。

こうした指導に引き続き、T₁として授業を行ったり、T₂として実験の補助をしたりしました。問題解決型の授業を試みる先生や観察・実験を大切にして授業を行う先生方も多くいたことは心強いことです。

理科室・理科準備室の視察

新学習指導要領で使用する器具等の整備状況や、理科室や理科準備室が使いやすいよう実験器具等が配置されているかを把握するため、理科室と理科準備室の状況を視察しました。学校により整備状況に大きな差がみられました。

CST講座

講座では参加者が困っている内容を挙げてもらい、その内容に即した研修も行う前半と、単元に関連する理論を学ぶ後半です。講師はCSTとCST専属理科支援員の先生方です。

12月の「地層」、1月の「ふりこ」の講座では、教科書の実験を行い、実験材料や実験方法の工夫、指導上の注意点などを助言しました。また、理科を指導する上で最低限知っておいたほうがよいと思われる「地層の作り方」や「振り子の振れ幅を短くする理由」など、理論的な背景をCST専属理科支援員の先生からご指導いただきました。この講座は、3月、そして来年度も継続する予定です。



3 郷土教育推進研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

（1）今年度の重点課題と博物館・図書館との連携

身近で具体的な郷土教材を活用すると、よく分かる楽しい授業が実践できます。その地道な実践を継続することにより「ふるさと日野」に誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成することができます。私達、郷土教育推進研究委員会では「身近」「具体」「地道」「継続」をキーワードに、7年目の研究を推進しています。今年度の重点課題の一つに「博物館・図書館と連携した授業づくり」があります。

本市の博物館・図書館には、郷土に関する資料や情報が蓄積されています。また、学校・市民に開かれた機関として、専門的な見地から学校・家庭を支援できます。この力を生かすと学校の授業が深まり広がり、児童・生徒が意欲的に学ぶことができます。多忙な学校現場において、博物館・図書館と連携することにより、効果的・効率的に授業を実践することができるのです。今号では、日野市立図書館の歴史と学校・郷土教育との関わりについて紹介します。

（2）日野市立図書館の歴史と今

利用率日本一の図書館

日野市の図書館は、昭和40年9月に1台の移動図書館「ひまわり号」でサービスを開始しました。昭和41年、最初の常設館である多摩平児童図書館が開設されました。これは、廃車となった都電を利用したもので、子どもたちから人気でした。同じ年に、高幡図書館が七生支所2階に開設されました。昭和42年、福祉センター図書館、昭和44年、社会教育センター図書館、昭和46年、平山児童図書館、昭和47年、百草台児童図書館、昭和48年、豊田に中央図書館が相次いで開設されました。昭和50年の人口1人当たりの貸し出し数は7.4冊で、利用率は全国1位となりました。昭和52年、市政図書室、平成2年、百草図書館が開館しました。その後、移転・リニューアルが続き現在に至っています。規模は決して大きくありませんが、地域に根ざした地域の図書館として、学校・市民に親しまれ活用されています。

図書館と郷土教育

平成20年に策定された図書館基本計画には、図書館の任務の一つとして、「日野市の地域資料・行政資料を収集・保存・提供し、日野市の歴史を未来に伝える」と明記されています。各図書館では、地域の特色ある図書等の資料を収集・提供し、レファレンスサービスも行っています。中央図書館2階のレファレンス室には、日野市の過去から現在に至る地形図が収集されています。過去の新聞も縮刷版やマイクロフィルム（多摩版のみ）、オンラインデータベース等を利用して引き出すことができます。市役所1階の市政図書室は、日野全域の郷土資料と行政に関する資料を収集・保存しています。図書館は読書だけではなく、郷土資料探しにも最適の場所です。

図書館から学校へのサービス

日野市の図書館は、第2次日野市子ども読書活動推進計画に基づき、学校への支援に力を入れています。具体的には、授業で必要な図書を学校に届ける、授業での課題を追究する調べ学習、相談への対応、小学校各クラスへ図書館利用ガイダンスと本の紹介、中学校職場体験への協力です。全国に誇る日野市の図書館です。学校や家庭で、もっともっと活用したいものです。

参考文献 ・平成23年『新聞記事で見る日野市のあゆみ50年 昭和編』日野市郷土資料館

・平成23年『平成22年度「郷土日野」指導事例 第6集』日野市立教育センター

日野市立図書館ホームページ <https://www.lib.city.hino.tokyo.jp/>



初代ひまわり号



電車図書館



七生支所に開設

小学校外国語活動と中学校英語の円滑な接続

(1) 小学校外国語活動の指導が始まる

今年度から、新しい小学校学習指導要領の実施により、小学校第5学年及び第6学年に35時間の外国語活動が位置づけられ指導が始まりました。

(2) 開発委員会の課題

平成22、23年度の2年間「小学校外国語活動と中学校外国語の円滑な接続」をテーマに研究を進めてきました。小・中連携の視点を踏まえ、コミュニケーション教育としての外国語活動のねらいを明確にして、授業展開に役立つ知識やスキルの向上を図り、指導方法のあり方を追究してきました。今年度は小学校外国語活動から中学校外国語（英語）を見通した指導の連続性を明らかにした以下の4つの視点から、研究を進め、研究の成果を報告書にまとめ発表しました。



指導計画・アクティビティ（小・中学校の学習内容を見通した指導計画を提案し、系統性を意識した授業作りを進める。）

授業作り・指導方法（小、中学校の指導の連続性を大切にしたクラスルームイングリッシュの使用、T Tの在り方などについて工夫する。）

外国語活動と外国語における評価の考え方を示し、授業中の方法について提案する

教材・教具（コミュニケーションに対する意欲的な姿勢を育てるための教材・教具の工夫やICTの活用について紹介する。）

小・中連携の視点で授業作りを進めることで、それぞれのねらいを明確にし、小学校と中学校の接続を滑らかにすることは、授業の質を高めるとともに中1ギャップの解消にもつながりました。今年度は、上智大学外国語学部英語学科准教授 和泉伸一先生のご指導のもと授業実践と協議会（5月～11月全4回）を重ね、実践に即した研究を深めてきました。2年間の研究を報告書にまとめ、市内の各学校に配布し活用できるようにしました。

(3) 研究発表会の実施

2月16日には、日野第一中学校の食堂において、日野市内の小・中学校の教員を集めて、2年間の研究の成果を発表しました。また、今年度1年間指導していただいた上智大学准教授の和泉伸一先生に「内容言語統合型学習のすすめ」という演題でご講演とワークショップをすることができました。

(4) 1年間を振り返って（成果と課題）

小学校と中学校の指導の接続や教員同士の連携の日常化が進んだ。

外国語活動、外国語における教材の開発と共有ができるようになり効果をあげている。

外国語活動、外国語の指導に関する考え方の深まりがみられた。

市内の小・中学校の外国語活動・外国語指導の先進的実践教員の育成ができた。

今後の課題としては、小・中学校の接続を踏まえた外国語活動、外国語を広めていくために、ICTを活用した「外国語活動・外国語」の共有フォルダの活用・充実が日野市内の教員のスキルアップに繋がっていくようにしていくことです。

研修部

若手教員の育成に取り組む教育センターの活動

教職員研修係

教育センターは、若手教員の育成に取り組んでいます。今年度は、研修部専任2名と他の職務を兼任する所員5名の計7人で分担し、若手教員の授業観察及び指導を行いました。その様子の一部を紹介します。

研修名	対象人数	内容
若手教員育成研修(1年次)	47	年3回の授業観察及び指導の実施
若手教員育成研修(2年次)	34	年1回の授業観察及び指導の実施
授業力向上研修(4年次)	33	年1回の授業観察及び指導の実施

6年 理科「大地のつくりと変化」(2年次)



粒の異なる3種類の土と水を入れ物に入れ、よく攪拌した後にパイプの上からフラスコに流し、粒の大きいものから沈殿し、地層ができることを調べる実験をしていました。

<指導>

実験の手順を口頭で行ったため、教師に手順をたずねる場面をよく見かけました。確実に実験を行うようにするには、板書等で明確にわかるようにすることが重要であることを



アドバイスしました。

4年 算数「広さを調べよう」(2年次)



形の異なる長方形を組み合わせた図形の面積を求める学習を行っていました。

始めに長さを示さず図形を示し、面積を求める方法を考えさせていました。テンポのよい展開で、子どもたちは楽しみながら活動していました。解決の見通しが立ったところで、具体的な長さを示し、それぞれの子どもが気

いった方法で面積を求めさせていました。

<指導>

課題提示 求め方を考える 全体で交流する 数値を入れて計算と、展開の流れがすっきりしていたことがよかったです。

しかし、辺の長さを図に記入して面積を求めることになった時、立式ができなくなってしまった子どもがみ



れました。図形の操作だけでは面積の求め方が理解できない子どももいました。

子どもの実態に応じて、今日の展開とは逆に、図形の辺の長さを提示して面積を求める方法もあることを指導しました。

6年 外国語活動 「行ってみたい国を紹介しよう」(2年次)



見事な英語の発音で「国の有名な建物や名物料理などを当てるクイズ」や「国旗カルタゲーム」を行った後、行きたい国とその理由を紹介する活動をしていました。子どもたちは、夢中になってゲームを楽しんでいました。

<指導>

英語の発音がとてもきれいだったので、海外滞在等の経験があるか尋ねたところ、海外体験はないがALTとはよく交流したとのこと。元気のある子どもたちを教師の熱意でよく指導を行っていると感じました。



6年 社会「平和で豊かな暮らしを目指して」(4年次)



学級をしっかりと惹きつけて指導していました。始めに、戦後の青空教室、給食が開始された様子等の写真を示し、気づいたことを発表させた後、今の社会と比べさせ、暮らしが大きく変化した理由を考えさせました。その

後、日本国憲法前文を配布し、多く出ている言葉から戦後に目指した国づくりの考え方を捉えさせる授業を観察しました

<指導>

子どもたちが写真を見て、わかったこと、思ったことを次々に発言していました。その話し合いの過程で疑問が生まれ、課題に気づき、追究が始まります。



そのためには、本時のねらいに到達できるような適切な資料が必要です。社会科好きの子どもを育成するためには、適切な資料を提示すること、様々な学習活動を工夫すること、話し合いの活動を活発にさせることが必要です。今後さらに、教師の出番を減らし、子どもと共に授業創りに励むよう、指導しました。

相談部

1 一般教育相談

一般教育相談係

日野市教育相談室 ～ 確実な適応を目指して～

(1) 本年度の活動状況(4月～1月)

継続相談(来室)						
面接・親	面接・子	電話面接等	子どもこころの電話相談	一般電話相談	研修会等	合計
628	412	817	33	169	67	2126

本年度、1月末までの教育相談活動は、合計2126回です。このうち、継続相談の延べ相談回数が約87%を占めています。また、継続相談は、相談内容や相談者の状況などによって相談期間が長期になる場合があります。本年度は、継続相談75ケースのうち44ケースが昨年度から継続した相談です。なお、全75ケースのうち、相談内容の状況が改善されたり医療機関等の専門機関の紹介などで19ケースを終結させることができました。

(2) 相談の流れ

子どもこころの電話相談や一般電話相談の多くは1回の相談で終わります。しかし、中には相談者のニーズや相談内容、緊急度などによって、改めて面接して聞き取りを要するケースもあります。このような場合は、相談室内の会議でケースが報告され、日時などを調整して受付面接が行われます。面接後、室内の受理会議で相談員全員に結果が報告され、解決に向けて助言を行う、適切な専門機関を紹介する、相談室で継続して相談を行うなど、以後の方向性が協議され、相談者に伝えられます。このうち継続して相談を行うことになったケースが継続相談となります。

継続相談は、面接日時の予約が必要です。予約して相談者が来室し、相談員と面接することが原則ですが、相談者の体調や緊急事態など特別の事情のあるときは電話で行う場合もあります。また、相談を進める上で、相談者の関係者や担任等との面接や電話による相談を行う場合もあり、これらは統計上、継続相談ケースの電話面接等として集計されています。

(3) 相談室が連携・紹介する他の機関

相談室では、日ごろから市内外の相談機関との情報共有や相互の連携に努めています。また、医療機関等の情報収集を行い、相談者のニーズに備えています。本年度は、4月に開設された日野市発達支援室や八王子少年センターを訪問し、情報を交換し連携を図りました。主な連携先や相談ケースに応じて紹介する機関は以下のとおりです。

日野市適応指導教室(わかば教室)、日野市特別支援教育推進チーム、日野市発達支援室、日野市立子ども家庭支援センター、東京都教育相談センター、八王子児童相談所、八王子少年センター、大学の心理相談室、医療機関 など
--

2 学校生活相談

「わかば教室」の活動

学校生活相談係・わかば教室

近年、学校生活における精神的な悩みや人間関係での不安、不登校・登校渋り等、児童・生徒の健全育成に関わる対応は大きな課題となっています。学校生活相談係は、これらの課題対策として開設されている「わかば教室」に通室する児童・生徒に対して、相談・指導・援助、及び不登校問題に関する状況把握・情報提供や助言等を行ってきました。「わかば教室」の主な活動は次の通りです。

(1) 教育相談活動

カウンセラーが、通室する個々の子どもと定期的に継続して面接を行いました。また、随時保護者や在籍校とも相談してきました。継続したカウンセリングで多くの子どもが精神的に安定し、目標を持った生活や高校受験に向けての努力をするようになり、その重要性がますます増えています。保護者との密な連絡・相談がよい結果を生んでいます。今後も工夫改善をしていきます。

(2) 教育活動

楽しい体験活動（わかばタイム・行事）



「わかば教室」では、年間を通して幅広い体験活動を行なっています。

2学期は遠足や収穫祭等で楽しみました。体験活動には、いつも参加人数が多く、笑顔・活気、時には涙溢れる感動がありました。活動参加から学習参加へ、集団の輪の中へと適応の幅・質も高まっています。

丁寧な生活指導

指導員は本教室の方針に沿って、いつも子どもの状況を掴み、個々の理解のもとにより人間関係や健康な身体づくり、望ましい生活習慣の確立等を目指して丁寧に指導しました。安全指導を徹底し事故防止にも努めました。子どもの多くは表情が明るくなり、挨拶や友達との会話も生まれ、友達と時程に沿って行動できるようになりました。毎日朝・昼休みは、皆でスポーツを楽しんでいます。

個に応じた学習指導（5教科を中心にした学習タイム）

学年や学習進度、子どもの思い等を考慮して個別時間割を作成し、個別または小集団による基礎的な学習の指導・援助を行いました。また、自分のペースで学習ができるパソコンでのe-ラーニングを、楽しそうにかつ意欲的に学習する姿も見られました。



パソコンを活用して学習

(3) 学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力

以上の活動は学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力で支えられています。在籍校との連絡を密にし、子どもたちの通室の様子や出欠状況を把握したり、活動では地域の方やボランティアの学生等の協力があったりして、とても効果をあげています。また、当センターの登校支援コーディネータ、一般教育相談とも日常的に連携し協力し合っています。

今年度は年度途中からの通室者が増え、2月現在46名が通室しています。また、4名が年度途中で学校へ復帰できました。さらに、部分登校者も増えています。しかしながら、通室生の多くは乗り越えなければならない課題を多く抱えております。今後も子ども理解に努め、子どもたちが目標を持って向上していけるよう援助するとともに、学校に戻れる子どもが一人でも多くなるように学校や家庭、関係機関との連携・協力を強めていきたいと思っております。

「e-ラーニング」を活用した学習支援

登校支援員

1 “わかば教室”の児童・生徒を対象としたe-ラーニング

わかば教室通室児童・生徒は、年間を通し週二日(月・水)e-ラーニングで学習しています。つまずきのある学習やあまり学習してこなかった内容を基礎から学んだり、各学年の教科の内容も進度に応じて選んで学習できるので学力への不安が軽減されます。

学習への自信が、前向きに学校復帰や進級や進路を考えるきっかけにもなっています。

2 「在宅(家庭)」の児童・生徒を対象としたe-ラーニング

さまざまな理由から学校に登校できないなど、長期間の欠席状況にある、またはそのような傾向にあり、利用が認められた児童・生徒に対して、「在宅 e-ラーニング」を活用した学習支援を通して登校支援を行っています。家庭訪問をして、保護者と児童生徒との面談を通して学習相談を行い、個別の状況に応じた学習ができるように初回の学習に立ち会っています。

自宅でe-ラーニングを始めるには？ まずは、在籍校に相談してください。

< e-ラーニング利用期間と進級進学に伴うQ & A >

Q1 利用できる期間は決まっていますか？

A：原則として、利用が許可された年度の3月31日までです。

Q2 進級または進学後も継続はできますか？

A：進級については、在籍校に、利用を継続することを申し出てください。小学校を卒業し、中学校に進学する場合は、小学校卒業時点で終了となります。中学校入学後は、在籍校となる中学校に利用を申請してください。

登校支援 学校訪問と各機関連携の取り組み

登校支援コーディネータ

各学校から、毎月不登校に関する調査書を提出してもらっています。この調査内容や、市教育委員会の指示に基づき、不登校児童・生徒の状況把握、改善の取り組みを行ってきました。

欠席人数の増加傾向のある学校、家庭状況等難しい問題からの不登校児童・生徒を抱える学校には、複数回訪問してきました。とくに中学校の登校支援委員会・教育相談部会等に参加したり、養護教諭や先生方の生の声を聞き、改善の手立てを共に考えてきました。

その中から、在宅e-ラーニング設置や、わかば教室の入室に繋がった児童・生徒も出てきました。また、学校と教育相談室で、それぞれに行ってきた子供に対する指導の共通理解を深め、親や子供の不安を除き、わかば教室に入室できるよう改善した事例もあります。

市立病院との情報交換も行い、医学的な見地からの配慮事項を伺い、適応指導教室や学校での指導に生かすこともできました。

各学校においては、登校支援委員会を定例で行うなど、登校支援ための努力が顕著に見られました。スクールカウンセラーも活躍し、子ども家庭支援センターとの相談もよく行われています。しかし、様々な条件の中で、不登校児童・生徒の現状には、未だ苦しいものがあります。

今後も各機関が目標を共有し、個に応じた手立てをどうするか、連携していく必要があります。

不登校児童・生徒の問題は、将来の生き方に繋がる問題です。できるだけ早期に、人との関わりの場や共に学ぶ場に復帰させなければなりません。その子の次の成長に繋がる居場所が重要です。

教育資料・広報係より

教育センター教育資料の活用

探調ツールの活用をとおして

本教育センターは、調査研究事業、初任者指導などの教職員研修事業、教育相談室、わかば教室などの教育相談事業の他に、市内の小・中学校の教職員に対して教育資料の紹介や所有する図書資料の貸し出しなどを行い、実践的な指導力の向上に寄与するように努めています。

本センターの所有する教育資料は、AV資料も含め5千足らずですが、市内の教員がそれらを十分活用できるよう本年度の業務の重点としてきました。

1 センター教育資料室の全資料を登録し、図書管理を強化する

そのために、各小・中学校や教育センターに導入されている「探調ツール」(学校図書管理システム)を活用し、蔵書管理を徹底する。

2 「横断検索システム」が有効に活用できるようにする

探調ツールの機能の一つに、横のつながり、すなわち互いに図書のデータを横断的に検索できるシステム(横断検索システム)があります。現在、教育センターにある教育資料のデータを学校の図書室で、書名、著者名やキーワードで検索することが可能であり、必要ならば、校務支援メールで教育センターの教育資料・広報係に連絡をすれば、市内交換便で借りることができます。この機能を十分に周知し、多くの教員の皆様に活用してもらえよう、取り組みを進めます。



教育センター・Web サイトの紹介

教育情報センターとしての機能の充実を

本教育センターでは、学校へ必要な情報を随時提供できる“教育情報センター”としての機能の充実を進めています。特に、学校の先生方に対して、日常の授業に役立つ実践的な情報を提供できるようにしています。

センターWebサイトのメニューにある「研究紀要等各種資料」には、本センターの紀要だけでなく、郷土教育推進委員会の「郷土日野指導事例」、「ひのっ子教育21開発委員会」の「外国語活動指導」の中間報告など多くの指導事例などがストックされています。そのダウンロード数は1000を超えるものがあるなど、多くの方から活用されています。また、昨年度より、各小・中学校において発行している研究紀要・集録の冊子の概要を本センターWebサイトで紹介するとともに、紀要をPDF電子ファイルして閲覧者が必要なときにダウンロードできるようにしました。

本年度は、日野市教育委員会研究奨励校として7校(小学校6校、中学校1校)が、昨年の11月からこの2月までの間に発表会を行いました。センターWebサイトは当日配布された研究紀要の内容を早く紹介し、実践的な指導力を高めるために、研究成果を活用できるように努めてきました(現在2校)。先生方には本センターのWebサイトをご覧いただき、参考にさせていただきよう願っています。

公開資料のダウンロード回数(2月21日現在)

教育センター紀要(平成22年度版)	285
教育センター便り第25号(昨年12月)	46
郷土日野指導事例 第6号(昨年1月)	392
ひのっ子教育21開発委員会中間報告 (外国語活動, 昨年5月)	859